

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 663 号 | 氏名 | 坂本 綾美 |
| 学位審査委員 | 主査 | 工藤 崇 | |
| | 副査 | 江石 清行 | |
| | 副査 | 柳原 克紀 | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、急性期肺血栓塞栓症 (Pulmonary thromboembolism: PTE) の診断に二重エネルギーCTを応用することで、PTEの重症度を定量的に評価することが可能であるか検証したもので有り、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 最新の二重エネルギーCT撮像装置を用い、PTE患者群を重症度別に層別化した上で、二重エネルギーCTから得られる情報を客観的に評価するために、CT情報から肺還流血液量 (lung perfused blood volume: lung PBV) をワークステーション上で自動計算することで、検査間のバイアスを取り除き、種々の統計学的解析法でlung PBVとPTEの臨床的重症度、PTEによって生じる右心負荷の指標である右室・左室サイズ比 (RV/LV比) との関連を定量的に解析したもので有り、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、PTEのある群とない群ではlung PBVが有意差を持って異なっていた。また、PTEのある群を重症・中等症・軽症群に分けたところ、3群間のlung PBVには明らかな有意差が認められた。ただし、PTE軽症群とPTEのない群の間には有意差がなかった。また、PTEのある群において、RV/LV比とlung PBVの間には負の相関が認められた。これらのことから、二重エネルギーCTから得られるlung PBVはPTEの重症度評価・右心負荷の推定に役立つことが明らかとなった。</p> <p>以上のように本論文は循環器画像診断研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |